

整理番号

事業名 新小岩北地区輪中まちづくり事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200字以上～300字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>破堤すれば全住民が水害の危険があるので、多様な人が参加する輪中会議の設立を当初計画とした。当初計画通り達成。プラスαとして生徒や先生は輪中会議に出席できないので出前講座を開いた。輪中会議の前に1回ファシリテーター会議を開く予定であったが、毎回2-3回開き、万全の準備をした。近隣関係継続関係を支えるツール(i-pad)の作成については計画以上に早くできて、多くの区民が体験できた。その模様がテレビや新聞で報道された。集大成として企画したシンポジウムはNHK大越キャスタの出演、被災地からのゲスト、中学生の参加、もあって350名も参加した</p>	5
2	市民性	<p>出前講座の要請が、保育園・小学校・中学校・老人ホーム・ケア施設(父兄・PTA・先生・ホーム等の職員を含む)からあり、多様な年代に合う説明をする準備等、うれしい悲鳴が出る忙しさだった。また、i-padを見ればその場の浸水深さが立ちどころに判るアプリの使用研修に大勢の区民(2回で60人)が集まり、自宅周辺の浸水深を確かめた。その際、中学生が指導役を果たした。中川で実施された救命ボートの組み立て・操船・試乗イベントに400名が参加し、NHKのニュースなどで放映された。輪中会議の集大成であるシンポの参加者は350名だった。このようなことから地域の中で同意が得られ、評価されたものと認識している。</p>	5
3	波及効果	<p>ゼロメートル区域の危険性は何処も同じであるから、輪中会議や出前講座の手法、アプリによる減災の学習、ボート訓練等はどこでも利用できる見本である。現に、PTA主催の子供祭りのとき、プールでボート試乗訓練やアプリによる学習をした。アプリの江戸川区版・墨田区版を作りたいという声が出ている。また、葛飾区で「輪中会議」の普及を他の支所に働きかけている。東京のみならず全国の低地帯で活用できる良いモデルができたので、貴職に於いても奨励してほしい。</p>	5
4	継続性	<p>出前講座で、関係が出来た学校や施設には、年々新しい利用者が入るので、そのフォローや他の学校等に対象を広げる事業を葛飾区と協働して実施する予定である。</p> <p>また新規の施策として、区域内に「高台」がないので、マンション等を避難場所にする街側の施策と川沿いを盛り土して高台を作る河川側の施策の在り方や数量について検討する予定である。(財)新都市建設公社などに区の推薦を受けて助成を申請する(事前</p>	5

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

		協議済みで助成認可の可能性大)	
5	マルチステークホルダー・プロセス	<p>先ず町会は、学校・PTA・民生福祉など新たなグループに対して、協議体の実施プログラムを浸透させる大きな役割を果たした。②ゼロ研は、輪中会議の運営や、i-pad アプリの提供など、他の団体ではできないことを実施した。③家協会は持てる全国ネットを利用して東北被災地でボランティア活動をしている団体を紹介し、被災者との交流（3月に13の活動体を訪問し、彼らの夢や悩みの聴取と助言）に寄与。④区がメンバーの一員なので、新しい住民も安心感を持って協議会の活動に参加している。区のHPで当協議会の活動を逐次掲載している。⑤ア！は代表の役割を果たした。</p>	5

合計点

25

ランク

S